

普及センターだより

土 浦



令和3年7月21日 No.47
茨城県県南農林事務所 経営・普及部門
(土浦地域農業改良普及センター)
土浦合同庁舎第2分庁舎3F
土浦市真鍋5-17-26
土浦農業改良普及事業推進協議会
電話 029-822-7242
FAX 029-822-7370
URL https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nannorin/keiei/tsuchiura/00_index/index2018.html



ドローンを利用した水稲追肥作業の実演



ドローンメーカーによる最新機種の説明

ドローンを活用した水稲栽培に関する 現地検討会を開催

令和二年七月二一日、石岡市田島の現地ほ場で、ドローンを活用した水稲栽培に関する現地検討会を開催し、生産者、メーカー、県関係機関等四二名が参加しました。

始めに農業研究所の担当者より、新規需要米の多収と省力化を両立させるために取り組んでいる、ドローンによる追肥や薬剤防除の試験について、次にドローンメーカーのDJI(株)より、ドローン二機種について説明しました。その後、現地生産者の水田三〇アールで、最新型ドローンを利用した追肥作業の実演を行いました。事前に飛行ルートを設定し、自動で肥料散布を行いました。

参加した生産者からは、「今後は無人ヘリからドローンへの切り替えが加速していくのではないかと。将来的には購入を検討したい。」などの意見がありました。

普及センターでは、ドローンの導入により経済的メリットが得られる経営規模や条件を明らかにし、対象となる経営体への導入を支援するとともに、既に導入された経営体への利用技術を指導していきます。

営農トピックス

 etanotopics
れんこんの適正施肥について

れんこんは六月以降、急激に生長し肥料が多く必要になります。そのため、基肥一回で施肥する場合は肥効調節型の一発型肥料を使い、複数回に分けて施肥する場合は六月以降に追肥を行います。

一〇アールあたりの施肥量は、窒素二四、リン酸一三、カリ三二キログラムが基本です。基肥と追肥を分ける場合は、基肥に窒素八、リン酸一三、カリ一〇、追肥に窒素一六、カリ二二キログラム施用します。ただし、適正な施肥量はほ場の収量によって異なるので、表のとおり施肥量を調節しましょう。なお、肥料が多すぎると生育不良の原因になります。また、石灰窒素は窒素肥料に

表 収量※に応じたれんこんの施肥量
 ※目標収量ではなく過去のほ場実績収量のこと

10a あたり収量	窒素	リン酸	カリ
1,600kg (400箱)	12	6	16
1,800kg (450箱)	15	8	20
2,000kg (500箱)	18	10	24
2,200kg (550箱)	21	11	28
2,400kg (600箱)	24	13	32

もなります。石灰窒素を一〇〇キログラム施用すると、窒素を一〇キログラム施用したのと同じ効果があるので、基肥の窒素を少なくするか、石灰窒素併用型肥料「えこはす」を使用しましょう。

営農トピックス

 einontopics
イネ縞葉枯病抵抗性品種を作付けしましょう

県南・県西地域を中心に、イネ縞葉枯病の発生が問題となつていきます。効果的な防除対策として抵抗性品種を中心に紹介します。

イネ縞葉枯病は、イネ縞葉枯ウイルスを持ったヒメトビウンカが水稻を吸汁することにより感染します。この病気に感染すると、葉に淡黄色の縦縞（ややぼやけた縞の入り方）ができて、穂が出すくんだり、出穂しても不稔となり減収します（写真1）。感染後に治療はできないため、予防が重要です。

抵抗性品種は感染してもウイルスが株全体に広がることを防ぎ、被害を抑えることができます。抵抗性品種の例としては、「ふくまるSL」、「にじのきらめき」、「ほしじるし」、「あさひの夢」、「夢あおば」などがあります。非抵抗性品種を作付けする場合は、ヒメトビウンカを対象に、薬効が長期持続する育苗箱施肥剤で防除しましょう。なお、イネ縞葉枯病よりもくつ

きりした白か黄色の縞が発生する「ストライプ」等と呼ばれる株があります（写真2）。これはイネ縞葉枯病とは関係なく、減収もありません。



写真1
イネ縞葉枯病による穂の出すくみと葉の縞模様



写真2
「ストライプ」による葉の縞模様

営農トピックス

 einontopics
サツマイモ基腐病の侵入防止にご協力ください

九州を中心に関東地方でもサツマイモ基腐病の発生が確認されています。発生すると防除が困難で被害が拡大する恐れがあります。防除対策をしっかりと行い、侵入を防ぐ必要があります。

サツマイモ基腐病は、糸状菌（カビ）に感染した種イモや苗、発病株の残さや土壌が伝染源となります。

本病に感染すると、苗や茎の地際が黒く変色し、株の萎縮や葉の変色、巻葉などの症状が見



写真4
なり首側からの塊根腐敗



写真3
株基部の変色（暗褐色～黒色）

写真の出典：農研機構生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(01020C) 令和2年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/138589.html

られます（写真3）。感染したイモはなり首側から黒く変色し、腐敗します（写真4）。防除対策のポイントには、本病の発生地域から種イモや苗を持ち込まないこと、当日に調整した薬液を用いて苗消毒を行うこと、発生地域から持ち込んだコンテナ等の道具・資材は消毒することです。明渠等の排水対策も効果的です。また、感染を拡大させないためには、ほ場を移動する時に農機具や長靴の土をその都度洗い落とすことが重要です。栽培中は本病の症状がないかよく観察し、疑わしい症状が見られたら、普及センターまでご連絡ください。



「恵水」は、茨城県が育成したなしの新品種です。「新雪」に「筑水」を交配した実生から選抜し、平成二三年に品種登録されました。

収穫は、以下を目安に開始しましょう。▼収穫時期は例年、九月上旬から下旬。収穫始期は、満開後一三五〜一四〇日頃から。▼適熟時の表面色の目安は、果実表面の緑色が退色し、黄赤褐色の占める割合が七〇%以上となった状態で、ていあ部にやや緑色が残っている状態(写真5)。なお、これまでの調査により、次のような成熟特性が示されていますので、留意してください。▼収穫期間が三週間程度と長く、同一の園地や同一の樹内であっても樹勢や側枝の強さによってもばらつきが大きい傾向。▼県園芸研究所内における収穫盛は収穫始から一〇〜一四日程度。▼夏季が高温で推移した年には果皮色の着色が進まず、収穫盛が遅れ、果肉が軟化しやすくなる。▼収穫期後半は前半に比べ、表面色に対して地色が進行する。▼果肉先熟が予想される年には、収穫盛以降は、やや青め(「恵水」専用カラーチャート値:二〜二・五)で収穫しても果実品質に問題は無い。



写真5 ていあ部にやや緑色が残る状態



豚ふん堆肥が約五〇%使用された肥料(保証成分一〇・五・五)を活用したグラジオラスの実証ほを設置しました。生育期間中の病害虫の発生はなく、担当農家からは「例年より良く、採花率で約八〇%(例年六〇〜七〇%)だった」と高評価でした。SDGs(持続可能な開発目標)を意識した農業生産の取り組みを支援します。



土浦市

地域農業振興と花き経営体支援のため、「花の産地つちうら」プロジェクトが二年目となりました。六月一九〜二四日には父の日に併せた花の展示を実施しました。



石岡市

J A新ひたち野石岡梨部会は、令和三年四月二八日に銘柄産地指定証の交付式に出席し、銘柄産地として新たな三年のスタートを切りました。

J Aやさと梨部会は、令和三年五月六日に摘果講習会を開催

しました。着果状況を確認し、高品質な果実を出荷するために、丁寧な摘果及び徹底した病害虫防除を実施できるよう目合わせを行いました。



かすみがうら市

「湖山の宝」推奨品とは市で認定した生鮮品や加工品のブランドネーミングで、商品は四〇種以上。今年の新たな商品は、祝い事が続きいつまでもみんな笑顔でいてくれることをイメージして名付けた、ブランド米「寿米流(すまいる)」です。商品は市内において、地産地消レストラン「かすみキッチン」や地産品販売「かすみマルシェ」を運営する「かすみがうら未来づくりカンパニー」でお買います。詳細についてはHPをご覧ください。



どうぞよろしくお願ひします

今年度、新たに次の皆さんが青年農業者として茨城県知事の認定を受けました。

青年農業者

かすみ
がうら市
山内 拓己 氏 (養豚)



効率的で優良な繁殖管理をはじめ、完全自家配合飼料の活用、飼養管理の効率化や品質の向上、コスト低減に取り組んでおり、地域の養豚経営のモデルとなっています。

また、県南地区養豚青年部のリーダーとして活動を牽引しており、地域の中核的な養豚農家として、今後の活躍が期待されます。

石岡市
武熊 真史 氏 (養豚)



農場HACCP認証の取得や独自ブランド「武熊たくま豚」や茨城県銘柄豚「常陸の輝き」の生産など経営力の向上に意欲的に取り組んでいます。

また、県南地区養豚青年部に所属し、県内の養豚振興や活性化に貢献するなど、活動の中心的存在です。



◆ ありがとうございます
ございました

今年度、土浦市の高橋剛史さんが青年農業者を退任されました。長年にわたりご尽力いただき、ありがとうございました。



いばらき農業アカデミーのご案内

茨城県では農業の技術向上や経営発展に意欲のある方、農業を始めて間もない方、将来就農を目指す方など幅広い方を対象に、総合的な学びの場を提供する「いばらき農業アカデミー」を開設しています。



ホームページ



Facebook

問い合わせ先

いばらき農業アカデミー事務局
(農業総合センター内)
TEL 0299-45-8321
FAX 0299-45-8350

令和4年度茨城県立農業大学校
入学生募集のお知らせ

県立農業大学校では、高校等の卒業生(若しくは見込者)、農業大学校卒業生、短期大学等の卒業生(若しくは見込者)を対象に学生を募集しております。

区分	学科名	募集人員
学 科	農学科	40名
	畜産学科	10名
	園芸学科	30名
研 究 科		10名

問い合わせ先

茨城県立農業大学校
TEL 029-292-0010
FAX 029-292-0903